

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫=大本山本興寺御開士大平日普上人

寺楽寿

No.19

平成 27 年 1 月 1 日 発行



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

本覺山 妙壽寺（法華宗（本門流））
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ http://myojyuj.or.jp

無縁社会と寺縁 その16

新しい歳を迎え、皆様には健やかなひとときをお過ごしのことと存じ上げます。
昨年は私事ですが、公私にわたり悲しいこと、辛いこと、そして楽しく喜ばしいこと、
悲喜交々の一年でありました。実りの秋には、自らが38年前に学んだ学び舎（興隆学林）
が新築落成し、檀信徒皆様方の御浄財、御厚情が面目一新、新校舎として結実いたしました。
この真新しい道場は将来の宗門、宗教、日本を支える若い僧侶の修業の場となります。
年末には宗門初の試みとして、25人の青年僧と女性のご縁を結ぶ集いが催されました。
少子高齢化の中で、良いご縁を結んでいく一助となればと思います。
また、時期を同じくして東京教区寺院婦人会での講話では、住職夫人の役割はお檀家と
お寺の間で、仏教、法華経の良きご縁を結ぶこととお話いたしました。
これらの場に臨んで心に惟うことは、お題目を唱える意義は「あなたを幸せにしましょう」
「私も幸せになりましょう」というものではないかと思つた次第であります。

鴉 鴝



竹灯籠・花供養・落語（11月29日 当山本堂）

七五三祈願法要

11月3日、御会式法要に先立ち、午前11時より当山御宝前において、総代山木宏之氏令孫の山木里桜さん（7歳）の七五三法要が奉修されました。
里桜さんはチアリーダーの教室に通う活潑な女の子です。法要後、当住上人、式衆上人と共に山木家墓所にお参りされました。里桜さんおよびご一家の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



法華宗興隆学林専門学校新校舎落成慶讃法要（9月29日）



正隆会日本橋ウォーク（10月11日）

寺日記

てらにつき

- 9月3日 福知山災害見舞い
京都府福知山市光延寺へ豪雨による土砂災害のお見舞いに当住上人が参上しました。
- 9月8日～10日 法華宗教学研究所総会
ホテルエルセラーン大阪において、本年度の教学研究所総会が開催されました。
- 9月29日 法華宗興隆学林専門学校落成式
尼崎市大本山本興寺に隣接した興隆学林新校舎が竣工し、法華宗管長平田日範親下大導師にて落慶法要が奉修され、都ホテルニューアルカイクにおいて盛大に祝賀会が催されました。（上記写真）
- 10月1日～3日 東海教区教学講習会
沼津市ホテルキャスルにて教学講習会が開催（講師：平島盛龍先生、株橋隆真先生）され、当住上人は当局・教学部長として出席し、当山弟子職員5名が聴講いたしました。
- 10月8日 全日本仏教会第3回代議員会
大阪市阿倍野区の「あべのハルカス」において、全日本仏教会第3回代議員会が開催、当住上人が参加されました。
- 10月11日 正隆会ウォーク
恒例の正隆会ウォークは、日本橋周辺で、ピルの間をすりぬけ江戸の名残りを訪ねました。10時日本橋上で集合、はいばら和紙店、伊場扇を巡り、千疋屋にて昼食後、三井美術館、近代美術館フィルムセンター、宝くじドリームセンターを見学し、その後解散。参加者は50名を超え、老舗店舗での買い物や歴史的建造物などを眺め、散策を楽しみました。（上記写真）
- 10月23日 日蓮聖人門下連合会京都理事會
京都日蓮門下16本山の中の本隆寺（法華宗真門流総本山）にて法要、門連京都協議会が京都ブライトンホテルで開催されました。
- 11月3日 御会式
秋晴れの中、恒例の宗祖御会式が奉修され、三百余名の檀信徒の参詣をいただきました。
- 11月8日 千葉珠恵（当住上人妹）さん逝去
当住上人妹の千葉珠恵さんが病氣療養中のところ、11月8日未明逝去されました。当山御宝前において、夫・千葉隆行氏喪主にて10日通夜、11日葬儀が肅やかに執り行われました。慈隆院妙珠日恵大姉。行年55歳。
- 11月8日 鰻割烹「あつみ」店舗落成
当山檀家葉山常司氏経営の久我山「鰻割烹あつみ」が開店。店舗落成式が行われました。
- 11月14日 法華宗管長推戴式
沼津市大本山光長寺において、御貫首石田日信親下、第134代法華宗管長推戴式が奉修されました。
- 11月20日 大僧正日普上人ご遷化
大本山本興寺第129世国祐寺第26世大僧正大平日普上人法寿百歳にてご遷化、24日通夜法要、25日日本葬儀法要が香川県観音寺市豊浜国祐寺（住職：大平宏龍法華宗興隆学林長）において厳かに法要奉修されました。（本紙のスローガンをご揮毫）
- 11月20日・21日 東京教区法式研修会
法式の研修会が当山お向いの永隆寺にて開催され、当職員5名が参加いたしました。
- 11月29日 竹灯籠・花供養・落語
午後1時半より当山本堂において、春風亭一之輔師匠による落語独演会「時そば」「菱馬」の2席、3時半より竹灯籠能「半部（はじとみ）」を浅見慈一師（シテ）が演じ、また、花道みささぎ流家元・片桐功敦氏が花供養を行いました。
- 12月2日 東京教区寺院婦人会
寺院婦人会の講習会が当住上人（教学部長）を講師として「寺院婦人今昔」の講題で日本橋倶楽部にて開催されました。
- 12月2日 尼崎大本山本興寺信行動学院地鎮式
宗務院主催による宗内僧侶・子弟を対象と

予告 日春日隆日朝聖人御遠忌 駿河路・大本山光長寺団参旅行
平成 27 年 4 月 5 日（日）～ 6 日（月）

予定日程
5日（日） 朝、新宿西口センタービル前集合→三保の松原・日本平・久能山東照宮を見学→焼津ホテルアンピア松風閣宿泊
6日（月） 大本山光長寺法要参拝→沼津港買い物→新宿駅解散

妙壽寺 2015 冬春夏スケジュール

2月3日 節分会・正隆会2月例会
3月21日 春の彼岸法要
午前11時：中日合同法要 初座・動物廂法要
正午12時：歴代墓所・正隆廟法要
午後2時：中日合同法要 第二座
7月16日 孟蘭盆会施餓鬼法要

正隆会 (SHORYU-kai) 月例講 月例講 月例講 月例講
午後2時開催

1月10日（土） 初題目 勉強会「心が温くなる日蓮の言葉」拝読-21-
2月3日（火） 節分会 勉強会「心が温くなる日蓮の言葉」拝読-22-
3月14日（土） 写経会
4月5日（日）・6日（月） 妙壽寺と併催による光長寺団参旅行（上記）
5月9日（土） 講師勉強会（未定）

宗務院 DIARY 当住上人の

9/12 ▶ 宗祖御生誕 800 年準備会（第2回）
12/17 ▶ 宗門史編纂委員会
9/5 10/9 10/17 11/21 12/10 ▶ 責任役員会議（内局会議）

Happy Wedding 心よりご多幸をお祈り申し上げます～

9月6日 埼玉県八潮市妙法寺住職中村妙心尼上人と小幡猛氏
コートヤード・マリOTT銀座東武ホテル
9月28日 東京ブリストクラブ会員・岩佐哲雄先生御長男・
准光師（正行寺副住職）と大河内浩子さん
ホテルオークラ東京
10月11日 当住上人友人の齋藤陽資氏と川端麻祐子さん
ホテルオークラ東京
10月29日 当山組寺の浅草長国寺副住職井筒榮秀上人と藤田優さん
浅草ビューホテル
11月22日 宗務院書記の渡部憲吾上人（師父・秋田県花輪市
本勝寺住職渡部海浩上人）と長尾雅代さん
銀座マキシム・ド・パリ

KUGENJIMA & SAN FRANCISCO 鶴沼・桑港から

桑港▶ 11月9日 日蓮教会御会式 夏を思い出させるような秋晴れの中、2歳から90歳を超えるメンバー30余名の参集を得て、桑港日蓮教会のお会式法要が園田顕教師御導師にて執り行われました（写真）。

晴明庵▶ 8月19日 伊東海施餓鬼 快晴の伊東港を午後1時半、漁船に10名余が乗船して手石島を回り、組板岩の宗祖日蓮大聖人伊豆法難御尊像前にて海施餓鬼法要が営まれました。これに先立ち、伊東駅近くの楠山豊治家御宝前において、海施餓鬼法要が営まれました。
11月23日 御会式 快晴の中、20余名にて御会式の唱題行が行われました。

した縁結びの「縁会」が東京お台場のホテルグ
ランパシフィック LE DAIBA において行
われました。
● 12月8日 当山歴代人報恩法要
恒例の当山歴代人報恩法要が奉修されま
した。その後、席を新宿伊勢丹「正月屋」に移
して懇親の席が設けられました。
● 12月10日 柴又釈天願経寺本葬
東京ブレイストクラブ元会員・望月良晃先生
の本葬儀が柴又願経寺にて営まれ、浅草ビュー
ホテルに供養席が設けられ、故人を偲びました。
● 12月21日・24日 長島夫人奉送絵画展
当山世話人であり婦人会の長島美保子夫人
（元総代故長島伸行氏夫人）の奉送記念絵画展
が銀座・ギャラリー青羅で行われました。
● 12月23日 お焚き上げ法要
一年間で当山に納められるお仏具等の抜魂お
焚き上げ法要が奉修されました。

渡辺家と妙壽寺

三吉 渡辺先生、本日はお忙しい中を当山へお越しいただきまして、ありがとうございます。私が先生に初めてお会いしたのは、ご自宅にお盆の棚経で伺ったのが最初だと思いますが、

渡辺先生(以下、敬称略) そうです。目白にお越しいただきました。

三吉 その時に先生からいろいろな興味あるお話を伺いまして、そこから私もお話を伺わせていただくようになりました。ところで渡辺家とは、妙壽寺が深川にある時からですか。

渡辺 そうなものです。

三吉 先生はどの辺りまでご存じですか。

渡辺 祖母は妙壽寺さんの檀家でいられることを自慢して話してくれましたし、遺言として「渡辺家の墓石は江戸時代からのものであるから新しくしてはいけぬ」と申しておりました。

三吉 それは、おばあ様は当然ご年齢から言うのと関東大震災のご経験者ですね。

渡辺 はい。私の母も経験者です。

三吉 私の母も実は経験者なんです。私の母は大正6年生まれですから、6歳で関東大震災に遭いましたが、日本橋に住んでいて、当時は宮城と言いましたが、今の皇居に逃げたという話は聞いています。その当時の渡辺家のお仕事向きは、いかがでしたでしょうか。

渡辺 明治の前までは下級武士だったらしいんですが、明治になって商人になったようです。

三吉 維新のときは、士族として迎えて…。

渡辺 戦前の本籍は神田区岩本町でした。

三吉 岩本町はほとんど神田ですね。昔の東京は今の区よりもっと小さかった。それで、東京はもともと真ん中あたりにあります。



三吉廣明上人



渡辺三枝子先生

お檀家さんがやはりいたようです。

渡辺 祖母と同じことを申していました。渡辺家は、戦前、長男が静岡県三島の製紙会社に勤になり、疎開を経て、そのまま東京に戻れず、私は三島で育ちました。幼い頃の記憶の中に祖母と母に連れられて妙壽寺さんに詣で、帰りに日本橋の三越に寄り、「迷子になったからこのライオンのところで待つこと」と言われたことが思い出されます。

三吉 いや、あのライオンのすぐ近くで、私の母も生まれていますから。

渡辺 祖母は東京人であることを生涯自慢にしていましたから、私に決して伊豆の言葉やイントネーションを使わせませんでした。おかしな江戸っ子言葉を使って学校で笑われたこともあります。

三吉 では、小さいときはあらだったんですか。

渡辺 はい。裾野市にある不二聖心で18歳まで過ごしました。

日本の大学の教育環境

三吉 先生のお話の中で、特に印象的だったのは、先生は筑波大の教職に就かれていました。私の学生のころは、一番優秀な生徒は、みんな教職(東京教育大学附属駒場中学校・高等学校)に行っていました。それが筑波大(昭和53年改名)に変わって、イメージが変わりました。かなり先進的な教育をされているということ、ただ優秀ではなくて、個性があつておもしろかったりして。実は私どもの宗派の僧侶養成学校教授陣に、筑波大の書道科を出ておられる先生がいらつしやいます。優秀だけではなく、尊敬を込めて大変ユニークなんです。

渡辺 おそらく、筑波大学らしいユニークな学類である芸術専門学類のご出身でしょうね。

三吉 はい。ただ、先生からお話を伺ったときに、ともかく大学改革で独立行政法人に移管するというところで、これは大変な時期において

私どもの総代に医学博士・大野典也先生がいらっしゃいますが、コロナビニア大の教授から、ハーバード大教授を経て、慈恵医大に戻られました。本紙インタビュー(14号・平成25年9月)にも掲載しておりますが、大野先生によると、かつては日米の教授の違いは、日本では論文を1本書けば退任までずっと教授でいられるところ。ところが、アメリカの場合は、教授自ら研究費を集めてマネジメントしていかなければ教授の地位にいられないと。世界の利根川進先生(1987年ノーベル生理学・医学賞受賞)ですら、実はそうだったというお話を伺い、大変驚きました。

三吉 それで、渡辺先生のお話を伺って、これは大変ご苦労な場面においでになったと思いましたが、そのあたりの経験はいかがでしたでしょうか。

渡辺 筑波大学は一期期文部省立と擲論されるほど国立大の改革の先端に置かれたため、内部ではかなりの混乱を経験しましたが、主に外国経験のある若手の教員等が改革を推し進めたようです。私は20年前に奉職しましたので、東京から筑波に移った時の混乱は終結していました。現在は大半の大学が改革の不可欠なことは認識していますが、根本的な方針に混乱気味な大学も少なくないです。古い体質を抜く出すことは一筋縄ではないですね。思考力、決断力、マネージメント力も不可欠だと思います。

三吉 今ご住職が指摘するように、1本論文を書いて、あとは自分の研究室を守るという教員生活は許されなくなり、毎年、研究業績の提出が義務付けられ、学生指導や大学の運営業務、大学評価機構のチェック、研究費の獲得のための事務作業等多忙を極め、その結果本来の教育と研究活動に時間が割けないという矛盾も起きています。しかし改革には教職員が協力体制の必要性に気づき、協働する能力を鍛えれば多忙を整理できるような気がします。経験からですが、

三吉 そうした中で筑波大学は、社会の変化の動向に着目した新学科設立や新領域の研究にも取り組んだと思います。例えば、有職社会人対象の夜間大学院は25年前に日本で最初に開設したのも社会の変化への対応であったと思います。

渡辺 はい。裾野市にある不二聖心で18歳まで

三吉 先生のお話の中で、特に印象的だったのは、先生は筑波大の教職に就かれていました。私の学生のころは、一番優秀な生徒は、みんな教職(東京教育大学附属駒場中学校・高等学校)に行っていました。それが筑波大(昭和53年改名)に変わって、イメージが変わりました。かなり先進的な教育をされているということ、ただ優秀ではなくて、個性があつておもしろかったりして。実は私どもの宗派の僧侶養成学校教授陣に、筑波大の書道科を出ておられる先生がいらつしやいます。優秀だけではなく、尊敬を込めて大変ユニークなんです。おそらく、筑波大学らしいユニークな学類である芸術専門学類のご出身でしょうね。三吉 はい。ただ、先生からお話を伺ったときに、ともかく大学改革で独立行政法人に移管するというところで、これは大変な時期において

からの官僚制度が現在まで全てつながっているわけ、そういう歴史的・文化的背景というものはやはりなかなか難しいものだなと思えます。ですから、逆にアメリカは建国200年という新しい国ですから、やりやすいと言っていることかなと…。

渡辺 そうですね、アメリカ人の「未来志向と自主独立」の建国の精神は様々な場面で力を発揮していると思います。その価値観は、指導者達が「今何が重要か」という目的志向の態度で議論できることにつながっていると思います。今日日本では、「決められない教授会」を問題視した行政が、「学長権限の強化」という対策を打ち出したのですが、それは時代錯誤で、問題解決にはならないと思います。私自身筑波大学で、リーダーに真のマネージメント力があれば、短時間で経験や年齢を超えて議論ができ、最終的に皆が協力できる結論が出るという経験をしました。

三吉 アメリカに親戚がおりますが、中学、高校で、会議の進め方の授業があるそうです。ボート(投票)ミーティングと言つて、日本でいうと総代会のようなもので、アメリカの教会、つまりお寺の理事会は、やはりチェアマンがいて意見を言うボートメンバが進行しますが、最後にボートして、案件を決めるようです。その辺りが日本と違いがありますね。

渡辺 そうです。だから、私が葛藤したとすれば、筑波大学ではなく、石橋を叩いても渡れない、決断できないガバナンス力のない教育界の風土です。

三吉 どこでも一緒ですね。

渡辺 その点でも私は筑波大学で貴重な経験をさせてもらいました。筑波大学では多国籍の大学院生を対象とした国際経営プロフェッショナル大学院を開設し、そこで3年間教える機会を得ました。その教授はアメリカ人の教授、日本で博士号を取得した中国人、6名の日本人教授(そのうち2名はアメリカで博士号取得)で構成されていました。10名での教授会で

三吉 上智大学に進まれたのは、なぜですか。渡辺 親の勧めもありますが、一番の決め手は、高校1年の宗教の時間に、ダーウィンの進化論の科学的価値と宗教との関係についてを明確に説明してくれた上智大学のアメリカの神父様との出会いです。学問の興味を知ったその時の衝撃は今でも思い出されます。私は日本史と哲学的なことに関心があり、高校3年の発表会で親鸞を取り上げ、もしあの時代に日本にキリスト教伝来があつたら親鸞はどうであつたかを、拙

い英語で発表したことを思い出します。三吉 倉田百三の「出家とその弟子」とかを讀まれました。渡辺 「出家とその弟子」にはとても惹きつけられました。三吉 それで、英語を専攻されたんですね。渡辺 いえ、フランス語を専攻しました。三吉 そうですか。英語は上智大学で勉強されて、その後、海外留学されたのですか。

渡辺 留学のきっかけは大学卒業後1年間小中、高校一貫校でフランス語を教えた教師経験です。そこで、教師と保護者、学校経営者などの教育観が、個々の子どもへの学ぶ意欲や能力の発達にどんなに大きな影響を及ぼすかを経験しました。そして、特定の教科を教えるよりも、子どもたちが将来自立的に生きていく力を発達させる活動に関心を持ちました。大人に依存しなければ生きられない子供時代へのおとなの配慮が非常に重要だと考えたのです。その考えを上智大学の教員であり、アメリカで教育を受けた神父様に相談したところ、日本では学べないが、アメリカならカウンセリング心理学という専門領域があり、まさに「混迷を極める社会の中で、個人が社会の中で自立的に生きていくことのために研究や指導を行う心理学領域がある」と教えていただきました。親も許してくれましたので、1年間英語の勉強し直して留学しました。

三吉 どちらに行かれたのですか。渡辺 上智の姉妹校であるボストンカレッジ大学院です。ここでの学びが私の基盤となっています。

三吉 お話が少し少なくなつてしまっていますが、今から19年前の平成7年に阪神大震災があつて、続いてオウム事件がありました。私はあのときが日本の精神生活の中で大きなエポックメーキングだと思つております。もう一つは児童の事件で、平成9年の神戸連続児童殺傷事件がありましたね。それから今年に入つてからは、同級生による佐保女子高生殺害事件が起きました。それと、3年半前の東日本大震災がありました。仏教で機根という言葉があります。仏の教えを聞いて修行しうる能力のこと、また仏の教え

「心、人として生きる」

を理解する度量・器のことで、一般にいう根性は、この機根に由来する言葉です。わかりやすく言うと、昭和43年の3億円事件があつたときには、事件の報道は3月と半年ずつとやっていったような気がしますが、今は人が殺されたり、事件があつても、数日で忘れられてしまふ。それだけ世の中では大きないろいろなことが起こっていると思うのです。そういう中で、先般、我々の宗派の研究で話が出たのは、子供の心の闇のことです。研究所の所長先生が、いろいろなことは科学的に分析できるけれど、本当の意味で心の闇のような部分を、我々の宗教とか、哲学、あるいは心理学という分野で、どのようにこれを捕らえていくべきなのかは、我々の役目ではないかということでした。

その辺りは、先生はどのようにお考えですか。渡辺 本日に昨今の子供の事件には心が痛みます。そのたびに私は、おとなの責任を痛感してしまします。特に子供の場合、心の中の経験は行動で表現すると考えます。子供の問題は社会の問題を表現しているのではないのでしょうか。人は年齢とともに自然と自己責任の取れる成人になるわけではないのです。そこに教育の存在意義があると信じます。また、人は他者および環境との相互関係の中に存在するという立場に立ちますので、社会問題化する問題は対人的、社会的課題の表出とも考えます。三吉 これは日本固有の現象なのですか。それとも、世界的な現象でもあるのですか。渡辺 経済発展こそが社会問題、心の問題の解決策と勘違いする程度は現在の東洋圏に強いように思えるのですが。教育界でもインターネット導入を最新の教育と考える風潮がありますが、「偶然」の出会いや未知の体験こそが、先人の知に触れ、新たな知への挑戦となるわけで、そこにこそ教育の意味があると思つています。三吉 そうですね。実は昨日、まさに私の恩師である、今の僧侶学校の校長先生(前述の所長先生)が最後の謝辞の中で、「それはしかし、現在の世間、一般の教育現場での諸問題が、教師だけの問題ではなく社会全体の問題であることを、僧侶の育成は宗門全体の問題であることを、ご理解賜ることが不可欠です」と。まさに、これは達見だと思います。(次号につづく)

Profile

渡辺(村岡)三枝子氏

学歴：
上智大学外国語学部卒、米国ボストンカレッジ大学院修士課程(カウンセリング心理学専攻)M.Ed取得、上智大学大学院博士課程臨床心理学専攻単位満了、ペンシルヴェニア州立大学大学院博士課程修了、Ph.D.取得(カウンセリング心理学カウンセラー教育専攻)。

職歴：
日本労働研究・研修機構研究所主任研究員、明治学院大学教授、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授、同大学キャリア支援室長、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科特任教授、立教学院調査役を経て、平成25年4月筑波大学名誉教授、同大学研究センター客員研究員

専門分野：
カウンセリング心理学、カウンセラー教育、職業心理学。現在の主な研究テーマ：「生涯キャリア発達アプローチに基づくキャリアアダプタビリティの概念形成」(国際研究)、「生涯キャリア発達支援のためのシステム構築」(特別支援学校から大学までのキャリア支援の意義とあり方)。

主な著書：
『キャリアカウンセリング入門』(共著、ナカニシヤ出版、2001)、『新版カウンセリング心理学』(ナカニシヤ出版、2002)、『オーガニゼーションナル・カウンセリング序説』(編著、ナカニシヤ出版、2005)、『新版キャリアの心理学』(編著、ナカニシヤ出版、2007)、『キャリア教育：自立していく子どもたち』(単著、東京書籍、2008)、『考える力を伸ばす教科書』(共著、日経、2010)、『女性プロフェッショナルから学ぶキャリア形成』(共著、ナカニシヤ出版、2009)、『大学生のためのデザインングキャリア』(共著、ナカニシヤ、2011)、『リハビリテーション・カウンセリング』(監修、ナカニシヤ出版、2010)、『キャリアカウンセリング再考』(編著、ナカニシヤ、2013)など。